

第一編 地形論

【第一節】 古期鎔岩臺地

筑前、豊前、豊後三國ノ境界地方ハ甚ダ高峻ナル山塊ヲ形ツク
 リ英彦山ヒコヤシ（或ハ彦山トモ書ク）（一一九九メートル）之ガ霸タリ、其西南ニ接
 シテ岳滅鬼山ガクメキ（一〇三六メートル）、障子ヶ岳（九四〇メートル）、
 釋迦岳（八四四メートル）、大日岳（八三〇メートル）ノ諸峯突起
 ス。

英彦山ト相竝ビテ東北ニ鷹巢山（九七九メートル）ノ突起アリ、
 此兩山ノ間ハ少シク低マリテ藥師峠ヲ通ズ、是レ彦山村ヨリ
 耶馬溪ニ通ズル主要山道ナリ。

此英彦山々彙ハ東方、東南方及ビ南方ニ引續キテ峨々タル山
 塊ヲ形ツクル。

英彦山及ビ鷹巢山ノ北々東ニ當リ豊前國築上及ビ下毛二郡ノ
 境ニ聳ユル突起ハ犬ヶ岳（一一三〇メートル）ニシテ、尙ホ東ニ
 並ビテ經讀山（九九二メートル）、雁股山（八〇〇メートル）、瓦岳
 （六二四メートル）、大平山（五九七メートル）等アリ、此連峯ノ北
 側ハ往々絶壁ヲ形ツクリ次第ニ低夷シ終ニ緩漫ナル傾斜ノ山
 麓臺地ヲ成シテ海岸ニ至ル、此間處々ニ絶壁ニヨリテ圍マレ
 タル壘臺的ノ突起（Butte）ヲ殘ス、即チ求菩提山（七八二メー

ル）國見山（六三八メートル）等ハ其好例ナリ、此北側山麓ノ臺地
 ハ著シキ地形ニシテ行橋—中津間ノ汽車中ヨリ望見シ得ベ
 シ、而シテ其大部分ハ古キ海岸棚ヲ代表スル段丘（洪積期）ナリ。

此洪積期海岸段丘ハ現今ノ海岸近クヨリ漸次高マリテ二百「メートル」ニ達シ、
 時ニ三百「メートル」ニ近キ高距ヲ有スルニ至ル處アリ、山國川下流ノ西岸即チ
 中津町ノ南方ニ於テハ高サ百五十「メートル」内外迄ニ高マルノミナレドモ、築
 上郡松江及ビ椎田附近ニ於テハ此段丘ハ海岸ニ近ク起リ緩傾斜ヲ以テ漸次ニ高
 マリテ二里近クモ西南方ニ引續キ三百「メートル」近クニ達シテ求菩提山、國見
 山等ノ突起ノ縁ヲ形ツクル（第一版第二圖第九版第二圖）。山國川ノ沿岸唐原及
 ビ樋田—野路間等ニ見ル如ク、此段丘ハ花崗岩及ビ集塊岩等ガ波浪ノ作用ニテ
 削ラレタル波蝕面（Abrasion-face）上ニ砂層及ビ礫層ガ堆積セルモノニシテ、礫
 層ハ重ニ古期鎔岩臺地ヲ形ツクル鎔岩ノ大小ノ礫ヨリ成ル。又松江附近ノ段
 丘ヲ檢スルニ同シク成層集塊岩累層（第二編第 五節參照）ノ波蝕面上ニ厚キ礫層ノ堆積セ
 ルヲ認ム、此礫層ハ一種ノ礫岩トモ稱スベク、粘土質物質ニテ膠着セラル、大小
 ノ礫ヨリ成リ、礫ハ重ニ古期鎔岩臺地ヲ形ツクル鎔岩ヨリ成リ、小ナル砂利ヨリ
 直徑數尺ノ大サヲ有スルモノ迄種々アリ、凡テ多少圓ミテ帶フ（第十版第二）。
 山國川ノ西側ニハ斯クノ如ク廣キ海岸段丘ガ好ク發達スレド
 モ（第一版 第二圖）其東側即チ八面山ノ北麓地方ハ酷シク削剝セラレ廣
 ク冲積層ニヨリテ被覆セラレ段丘ノ發達スル事西方ノ如ク著
 シカラズ、八面山ノ北麓地方ニ蜿蜒々タル丘陵ハ其高サヨリ考
 ヘテ恐ラク西方洪積期段丘ノ引續キナランモ（第一版 第二圖）現今ハ其
 表面既ニ削剝セラレ、又小流ニヨリテ彫刻セラレ、山體ハ重ニ

成層集塊岩累層ニ依リテ形成セラル。

英彦山ノ東南部即チ犬ヶ岳、經讀山、大平山々彙ノ南方ハ此地
方ノ大川タル山國川ノ流域ニ屬シ、山國川ノ本流及ビ其大支
流タル津民川ニヨリテ貫カレ、千メートルニ近キ山峯相連リ、
往々斷崖危峯ヲ形ツクル、樋桶山(八七六メートル)、中摩殿畑山
(九九一メートル)、釣鐘山(八九二メートル)、檜原山(七三五メー
トル)等ハ其著シキモノナリ(第一版
第一圖)。

一方ニ於テハ英彦山々彙ヨリ南々東ニ向テ走ル山脈ハ豊前、
豊後ノ國境ヲ成シ東ハ山國川ノ上流、西ハ筑後川ノ一小支流ナ
ル小野川ノ谷ニヨリテ境セラレ、ガラメキ峠、大將陣山(九〇九
メートル)ヲ起シ、大石峠(四八五メートル||耶馬溪
ヨリ日田町ニ至ル縣道)ノ凹ミヲ經テ一
尺八寸山(七〇七メートル)ニ連ル。

以上舉ゲタル地域ハ調査區域ニ於テ最モ高峻ナル地形ヲ示ス
部分ニシテ、谷間ヲ歩メバ、兩岸狹マリ山高ク聳ヘテ深山幽谷
ノ中ニアルノ感アリ、然ルニ一度高峯ニ攀ヂ上リテ地形ヲ大
觀スレバ、凡テノ山峯ノ頂上部ハ著シキ高低ノ差ナク、北方ニ
テハ千メートル内外ノ高サノモノガ漸次ニ低マリテ南方ニ
テハ六百メートル内外ノ高距ヲ有シ、波狀ノ凹凸ヲ形ツクリ
且頂上部ニハ彼方此方ニ高原的地形ノ良ク發達スル處アリ
大將陣山々頂四近ノ緩漫ナル波狀ノ地形、中摩殿畑山、樋桶山

及ビ四近一體ノ山ガ相連リテ形ツクル標式の高原、一帶屏風

ノ如ク連レル一尺八寸山ノ頂上部、及ビ調査區域ノ北ニ連ル
犬ヶ岳、雁股山、瓦岳、大平山ノ山頂部ノ高原性地形ナドハ最モ
著シキ例ナリ、而シテ此間ニ諸處ニ標式的ノ殘臺或ハ見張臺
(机山、
平頂子) (table)ノ孤立スルアリテ、高原的地形ガ烈シク水ノ彫
刻作用ヲ受ケテ火山臺(Buff)ノ集合體トナリ、尙ホ進ンデ「ビ
ユート」トシテ孤立スルニ至リシ有様ヲ認メ得ベシ、地質論ニ

於テ詳述スル如ク英彦山ノ山頂及ビ其東ニ隣ル鷹巢山、津民
川ノ北邊ニ突出スル檜原山ノ如キハ皆著シキ「ビユート」ナリ。
是等ノ「メザ」「ビユート」等ノ頂上部ハ總テ厚キ、殆ド水平又ハ
緩漫ニ傾斜スル同一種ノ鎔岩流ヲ被リ、明カニ此地域一帯ニ
廣ガリタル廣大ナル鎔岩臺地ガ烈シキ水蝕作用ヲ受ケテ深ク
彫刻セラレ下部山骨ノ露出スルニ至リタルモノナルヲ示ス、
而シテ水蝕作用ノ著シキニモ關ラズ尙ホ頂上部ハ「メザ」又ハ

「ビユート」的ノ地形ヲ示シ地形學上幼年時期ノ終末ニ近キ形
貌ヲ示ス、換言スレバ此地域ハ彫刻セラレタル鎔岩臺地(Dip-
sected mesa-land)ニシテ、成生當時ノ鎔岩高原ハ余ノ調査區域
内ニ於テハ英彦山、犬ヶ岳、雁股山等ヲ含ム北部地方ニ高クシ
テ(一二〇〇乃至九〇〇メートル)南ニ進ムニ從テ漸次ニ低マリタル(五〇〇乃至
一〇〇)モノナルベシ。

調査區域中ニハ尙ホ山國川ノ南方ニ別ノ低キ鎔岩臺地發達シ、此者ハ地質構造上及ビ水ノ剝削作用ヲ受ケタル度合ヨリ考ヘテ明カニ新シキ時代ノ生成物ナレバ之ヲ新期鎔岩臺地ト呼ビ、之ニ對シテ今述ベタル地域即チ英彦山ヲ含ム地域ヲ古期鎔岩臺地ト呼ブ。

【第二節】 山國川

山國川ハ源ヲ豊前國下毛郡ノ西隅ニアル英彦山ノ東麓ニ發シテ東流スル小流ト、犬ヶ岳ノ南麓ヨリ發シ毛谷村ヲ過ギテ南流スル小流ト相合シタルモノニシテ、東南ニ流レテ釣鐘山ノ南麓ヲ過ギ三郷村守實モリサネノ附近ニテ急ニ方向ヲ轉ジ東北ニ向テ流レ、途中ニ南ヨリ流レ來ル金吉川カネヨシト下郷村大島附近ニ會シ、柿坂附近ニ於テ東南ヨリ流レ來ル山移川ヤマウツリヲ合セ、尙ホ柿坂ノ下流數町ノ處ニテ犬ヶ岳ノ南オウシ、合使峠ヨリ流レ來ル大支流タル津民川ヲ合セテ益々水量ヲ増シ、行々多數ノ小流ヲ合セテ耶馬溪ノ關門タル樋田ノ村落ヲ過ギテ北流スル一僅カニシテ遂ニ冲積地ニ入り中津町ニ於テ周防灘ニ朝ス、川ノ長サ凡ソ五十キロメートル、九州ノ東側ニ於ケル有數ノ大川ナリ。山國川ノ本流及ビ支流ハ所謂幼年時代ノ水流ニシテ、深ク高原性ノ地ヲ浸蝕シ兩岸絶壁ヲ形ツクルノミナラズ、此地方ノ

山骨ヲ形ツクル集塊岩質ノ岩類ト表面ヲ被覆スル鎔岩流トハ水蝕作用ニ對スル抵抗力異ナリ、特ニ集塊岩類ハ往々特有ノ水蝕形ヲ示シテ奇巖怪壁ヲ生ジ所謂天下ノ絶景タル耶馬溪ノ勝地ヲ形ツクレリ。

樋田ハ即チ耶馬溪ノ關門ニシテ是レヨリ山國川ニ沿フテ青及ビ柿坂ヲ經テ守實ニ到ル間ハ表耶馬溪ト呼バレ兩岸至ル所ニ奇巖怪峯ノ發達スルヲ見ル、青ノ洞門、競秀峰、青ヨリ支流ニ沿フテ南ニ泝ルコト約十町ノ邊ニアル新舊羅漢寺、口ノ林ノ西方山國川南岸ノ仙醉岩、柿坂ノ山陽擲筆峯及ビ肥前屋ト守實トノ間、川ノ北岸ニアル筭岩等ハ人口ニ膾炙セル勝景ナリ、此外ニ此種ノ風景ハ無數ニシテ無名ノ奇勝亦少カラズ(第二版乃至第七版)。津民川ノ谷ヲ西ニ泝リ合使峠ヲ越エテ山國川ノ北又ノ谷ニ入り新谷附近ニ至ル間ハ所謂裏耶馬溪ニシテ同ジク奇巖怪峯ニ富ミ羅漢寺式ノ風景ノ發達スル處少カラズ、落合ノ部落ヨリ泝ルコト約十二町、田處ノ南岸ニ屹立スル危峯ノ如キ其好例ナリ。

山國川ノ支流山移川ヤマウツリ及ビ金吉川カネヨシノ水流ハ所謂新期鎔岩臺地ヲ彫刻シテ流レ狹隘ナルU字形ノ峽澗ヲ形ツクリ、泝ルニ從ヒ兩岸益々相迫リ鎔岩流ヨリ成ル奇峰聳エ立チ山國川本流ニ見ルコトヲ得ザル幽凄ナル風景ヲ形ツクル、特ニ山移川ニ沿フ

テハ中津ヨリ玖珠郡森町ニ達スル縣道ヲ通ジ、其上流地方ハ新耶馬溪ト稱セラレ交通至便ナルノミナラズ風景ノ佳ナルコト舊耶馬溪ニ勝ルモノアレドモ其規模ノ大サハ到底舊耶馬溪ニ及バズ。山移川及ビ金吉川ハ標式的ノ幼年時代ノ谷ヲ形ツクリ、其谷間ヲ進メバ深山幽谷ヲ行クノ感アレドモ一度兩岸ノ絕壁ヲ攀ヂ登レバ眼界開ケ大ナル凹凸ナキ廣キ鎔岩臺地ノ發達スルヲ見ル(第八版第三圖)。

更ニ守實ヨリ山國川ノ本流ヲ泝レバ地質ノ變化ト共ニ風景モ亦變化ス、此處ヨリ英彦山ノ東側、川ノ水源地迄ハ所謂奧耶馬溪ニシテ、水流ハ此地方ノ基底ヲ形ヅクル角礫構造ヲ示ス綠色富士岩(一種ノ「プロピライト」)中ヲ彫刻シ、此岩石ハ屢々河床ヲ形ツクリ、水ハ其中ヲ深ク狭ク抉リテ流レ深淵ヲ形ツクルコトアリ、特ニ溝部村吉野ヨリ田良川ノ部落ニ至ル間ニ著シク、猿飛ビ、念佛橋其他ノ奇勝アリ(第十一版第一圖)。

【第三節】 新期鎔岩臺地

耶馬溪柿坂ヨリ山國川ニ沿フテ三郷村肥前屋ニ至ル間、兩岸ハ急峻ナル懸崖ヲ形ツクリ、其頂上部ハ平坦ナル臺地ノ如ク見エ、厚キ鎔岩流露出シ斷崖ヲ成ス。今試ミニ下郷村大島ノ部落ヨリ南方ノ金吉川ノ谷ニ入り、其

兩岸ヲ形ツクル鎔岩ノ絕壁ヲ攀ヂ懸崖ノ頂上部ニ登レバ、山國川ノ南側一帶ハ高サ四百メートル内外ノ一望ノ高原ニテ、大ナル突出物無ク緩漫ナル波狀ノ凹凸ヲ成シテ西ハ一尺八寸山ニ限ラレ南ノ方ハ遠ク玖珠郡ニ引續クヲ見ル(第八版第三圖)、此鎔岩臺地ハ山國川ノ北岸ニモ引續キ、庄屋村、宮園、沓掛ノ北ニ標式的ノ「メザ」及ビ「ビュート」ヲ形ツクルヲ見ル(第十一版第二圖)、然レドモ此鎔岩流ハ古期鎔岩臺地ノ爲メニ喰止メラレテ北岸ニハ僅カナル區域ニ廣ガルノミナリ。地形上、地質構造上ニ河北ノ一部ハ明カニ新期ノ鎔岩臺地ナレドモ、然モ山國川ハ此臺地ヲ彫刻侵蝕シテ南北ノ區域ニ兩分シタル形跡明瞭ナリ。

此臺地ハ多クノ水流ニ因リテ侵蝕ヲ受ケ到ル所U字形ノ幼年時代ノ谷ノ發達スルヲ見ル、特ニ著シキハ金吉川及ビ山移川ニシテ後者ノ上流ハ即チ新耶馬溪ト稱シ其兩岸ハ鎔岩ノ絕壁ニヨリテ限ラル。

此鎔岩臺地ヲ形ツクル鎔岩ハ遠ク南方ヨリ流レ來リシモノニシテ地形上及ビ岩石學上明カニ阿蘇火山ヨリ溢流シ來リタルモノナリ、サレバ此臺地ヲ新期鎔岩臺地又ハ阿蘇鎔岩臺地ト呼ブ。

【第四節】 調査區域東北部ノ地形

調査區域南部即チ阿蘇鎔岩臺地ノ單調ナル地形ニ對シ、東北
部即チ山國川中流大島ヨリ樋田ニ至ル間ノ南側及ビ東側ノ地
域ハ峻峯ノ孤立スルアリ、高峯ノ重疊相聳ユルアリテ頗ル複
雜ナル地形ヲ示ス。

大島部落ノ東ニハ阿蘇鎔岩臺地上ニ屹立スル鹿熊岳(六六四
メートル)アリ、鹿熊岳ノ東北ニ山移川ヲ距テ、木ノ子岳ノ峻
峯(六三〇メートル)アリ、何レモ阿蘇鎔岩流ノ中ニ「島」(Geologic
island)トシテ殘リシ富士岩塊ニシテ、瀬戸内海ノ陷落地帯ニ
特有ナル古銅、石、富士、岩ヨリ成ル、彼ノ木ノ子岳ハ中津町ヨリ
南ニ望メバ耶馬溪ノ谷間ニ唯一ツ三角錐狀ニ屹立シテ見ユル
山峯ナリ(第十七版、
第一圖)。

木ノ子嶽ノ東、羅漢川(又ハ琴川)ノ谷ヲ距テ、熊ヶ岳山彙アリ、高峯
相重疊シ東北ニ在ル前鶴山ニ續ク、此山彙ハ地質構造上塊狀
火山ノ集合體ニシテ、凡テ同一ノ富士岩ガ數個ノ道ヲ通ジテ
噴出シタルモノナリ、前鶴山頂ニハ噴火口トモ見ユル凹ミア
レドモ時代古キ爲メニ其眞偽明ナラズ。

前鶴山ノ北ニアル八面山(六五九メートル)ハ標式的ノ火山平
臺(メザ)ニシテ、四方絶壁ニヨリテ限ラレ頂上ハ高低少キ高
原性ノ地形ヲ示ス、中津町ヨリ此山ノ北側ヲ見ルモ(第十六版、
第二圖)東城井村ヨリ其南側ヲ望ム時ニモ壘臺的ノ地形良ク現ハル、

而シテ此上ヲ被覆スル鎔岩流ハ阿蘇鎔岩ナラズ、其岩石學上
ノ性質ヨリ古期鎔岩臺地ガ山國川ノ蝕刻ニヨリテ分離孤坐ス
ルニ至リタルモノト考フベキモノナリ。

尙ホ柿坂ノ東、鹿熊岳ノ北ニ當リ五五六メートルノ高峰聳ユ
立ツアリ、其形ハ不規則ナレドモ對岸即チ山國川ノ北ニ聳ユ
ル烏帽子岳ト同ジク頂上部ニ古期鎔岩ヲ被リ、明カニ八面山
ト同質ノ古期鎔岩臺地ヨリ分離シタル、甚シキ浸蝕ヲ受ケテ
生ジタル「ビユート」ナリ。

是等ノ高峯ノ間ノ地域ハ二―三百メートルノ小山起伏シ、重
ニ此地方ノ基底ヲ形ツクル集塊岩質ノ岩石ヨリ成リ、耶馬溪
ニ特有ナル奇巖怪峯ヲ形ツクル處多シ、新舊羅漢寺、青ノ競秀
峯等皆此地域中ニアリ、唯、羅漢寺ノ北及ビ東ニ在ル引塚(三三
二メートル)及ビ臺山(三二〇メートル)ノ二臺峯ハ小ナレドモ
標式的ノ「ビユート」ニシテ阿蘇鎔岩ヲ頂上ニ被ルヲ見ル、蓋シ
阿蘇鎔岩臺地ハ此邊迄モ引續キタルナランモ木ノ子岳以北ハ
總テ削剝セラレ、此處ニ僅ニ其面影ヲ殘スモノナリ。

火山臺地ノ稍々廣キモノハ八面山、五面山、^{ヤホトガタケ}八方ヶ岳等ノ稱アリ、孰レノ方面
ヨリ望ムモ山上ハ平坦ニテ四方繞ラスニ懸崖ヲ以テス、此多面臺山チ歐米ニテ
ハ「メザ」(mesa)ト云フ、^{ラフズ}拉子(褶子)「(臘子)」(Lappon)ト云フ東北滿洲地方ノ語ト同意
義ナリ、前者ノ小ナルモノニテ孤立スルモノチ Dufte「ビユート」ト稱ス、即チ見
張臺、壘臺ニテ滿洲ニテハ平頂子ト云フ、風景記事ニ必要ノ熟字ナリ(BK)